

令和6年度 学校重点目標並びに学校自己評価書（計画段階・実施段階）

学 校 運 営 計 画（４月）							評 価 （総 合）		
学校運営方針		(1) 実学の視点から、生徒の実態や教育ニーズを把握し、社会人として必要な基礎学力の定着と専門性の向上を図ります。 (2) 社会に開かれたバランスのとれた教育活動を行い、生徒一人ひとりの進路実現に向けた個性を伸ばす教育を目指します。					B		
昨年度の成果と課題		令和6年度重点目標		具 体 的 目 標					
令和5年度卒業生においては、進学者57名、就職者85名となった。また、介護福祉士国家試験においては67％の合格率であった。 質の高い授業に努めているものの、i P a dを十分に活用してスキルアップを進めていかなくتهはならないと考える。 道徳教育・人権教育を」通して、人格形成を進めているが、生徒を取り巻く環境は厳しさを増している。担任はもちろん、SC・SSWの力を借り、進路保障を行わなければならない。		(1) 生徒一人ひとりが大切にされる学校		・ 一時間一時間の授業の準備をしっかりと行い、質の高い授業に努める					
				・ 生徒・保護者の思いに寄り添った、丁寧な指導を常に心がけて実践する					
		(2) 誰一人取り残さない学校づくり		・ 生徒の自尊感情を高める工夫をし、中途退学を出さない取り組みを実践する					
				・ SSWを配置し、生徒、保護者、自治体、学校を繋ぎ、生徒の支援を手厚くする					
				・ SCとの連携を図り、より生徒理解を深める					
評 価 項 目	具 体 的 目 標		具 体 的 方 策			評価（３月）		次年度の主な課題	
教 務 部	基礎学力の向上	わかる授業の実践により基礎・基本の徹底			B	B	B	・ ipadを利用しての基礎学力の向上と家庭学習の習慣。 ・ 視聴覚教材を活用し、興味関心の湧く授業の実践。	
		ipadを利用しての基礎学力の向上と家庭学習の習慣をつける			A				
	各種検定級の取得	検定試験に向け、放課後の施設開放と指導			A	A			
		検定級取得者への表彰			A				
	授業を大切にすることを養う	jiko			B	B			
		始業・終業時の挨拶指導			B				
		I C T教育の充実と興味関心の湧く授業の実践			B				
生徒指導部	いじめ防止・安心してすごせる環境づくり	学校生活アンケートを定期的に実施する。			B	B	B	・ 校内外の巡視強化し、問題の早期発見、早期解決のより迅速な実施。 ・ 校内外と連携の強化、生徒に寄り添った指導の実践。	
		交通安全教室・SNS講習会の実施。			B				
		登下校指導・スクールバスの乗車指導の実施。			B				
	校則を遵守し、規律ある心を養う	校内巡視を活用し、問題行動を未然に防ぐ。			B	B			
		休み時間の巡視を活用し、チャイム席。次の時間の準備を徹底させる。			B				
		指導の記録を残し、学年・職員間で情報の共有を行う。			B				
	生徒主体の学校づくり	生徒会総務の定例会を実施する。			A	A			
		生徒が主体となって学校行事を運営する。			A				
進路指導部	生徒の進路意識の高揚	個人面談の充実。			A	B	B	・ キャリアプランの早期作成。 ・ デジタル化した求人情報等の活用。	
		進路ガイダンスの充実。			B				
		課外授業の充実を図る。			B				
	生徒の主体性を養い、目標を持たせる	早い段階で自分の将来のことを考えさせる。（キャリアプランの作成）			B	B			
		iPadを用いた調べ学習の充実。			B				
		支援を必要とする生徒に対する個別支援の充実。			B				
	職業観の育成とキャリアガイダンスの充実	企業や上級学校との連携を深める。			B	B			
		職業についての理解を深める。			B				
		進路説明会や講習会等の実施。			B				

SLC教育部	不登校からの脱却	家庭環境をしっかりと把握し、登校に支障をきたしている事項に対して解決策を教員間で検討し、SSTなどを通して生徒とも連携する。	B	B	B	・ 基本的な生活習慣の改善を保護者との連携により推し進める。生徒の学校での動向を注視し、教員間の連携を進める。
	精神的ケアの充実	SLCでの職員朝礼で生徒の状況を共有し、特にスクールカウンセラーやスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用する。	B	B		
	基礎学力の向上、進学対策	各教科担任との連携をはかり、欠点を出不さないように取り組む。I p a dを用い、ネット学習を推進し基礎学力の充実と大学進学への意識改革を図る。	B	B		
人権・同和教育部	人権が尊重される学園づくりの推進	・ 人権アンケート調査の結果を生かし、生徒個々のきめ細かい指導を行う。	C	C	B	・ 生徒の人権意識の向上 ・ 教職員の人権意識の向上 ・ 人権意識向上のための校内外研修を充実させる。
		・ 人権・部落問題学習において、生徒の実態を把握して、教材・指導の見直しを行い、事前研修において、各教員が十分に趣旨を把握する。	C			
		・ 教職員の人権意識の高揚を図るため、校内研修を充実させ、各研修会に参加する。	C			
	関係機関との連携を密にする	・ 保護者、各関係機関、地域、SSW等と連絡を密にし、信頼関係を構築していく。	B	B		
		・ 「地域に学ぶ」ためにも、家庭訪問や中学校との連携を密にする。	B			
	旧退学者を出さない取り組み	・ 各学年団が生徒の置かれている状況を把握し、一人ひとりにあった取り組みを行う。	B	B		
・ 中退防止委員会を活用して、中途退学者・休学者・原級留置を減らすように努める。		C				
保 健 部	日頃の様子や、定期健康診断等の結果から健康状態を把握し、生徒及び職員の健康保持増進を図る。	保健だよりや掲示物を工夫し、健康診断等の受診意識向上を目指す。	B	B	B	・ 健康問題だけではなく、さまざまな事柄について他人事として捉えることが多いため、自分事として考え、行動できる生徒の育成を目指したい。 ・ 特に保健室に頻回来室する生徒には、学校行事に焦点を合わせながら、自身の健康課題について向き合い、対応していくという意識付けを行う。
		健康診断結果の配布、治療勧奨により、自己の成長や健康課題を認識させ、家庭と連携を図りながら、生涯を通しての健康づくりに取り組む。	A			
	教員間での情報共有を密にし、生徒一人ひとりにきめ細やかなサポートができる体制づくりに取り組む。	スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談の機会の充実を図る。	A	A		
		保健室での様子、教育相談室での相談、職員からの情報などから生徒の心身の変調を早期に把握しする。	A			
	環境美化に生徒・職員が一体となって取り組むことができる体制を整備し、快適な学習環境・職場環境の維持を図	ゴミの分別と軽量化、資源の再利用を推進する。	A	B		
		教室環境や身の回りの整備を日頃からよびかけ、環境美化意識を高める。	B			
ICT教育部	ICT教育部の充実	職員研修会の実施、職員のスキルアップ	C	C	C	・ 職員研修会、研究授業の実施、職員全体でのスキルアップの促進 ・ 学習支援ソフトの自宅で活用、授業支援ソフトを利用して効果的な学習環境作り ・ DXハイスクール事業の機器設定等の実施、授業での利用促進
		研究授業の実施、教科内での利用促進	C			
	学習支援ソフトの活用	スタディサプリを利用した基礎学力の向上	B	B		
		スタディサプリを利用した家庭学習の定着	C			
	授業支援ソフトの導入準備	コミュニケーションツールを利用した家庭との連絡充実	B	B		
		ロイロノート導入に伴う環境整備、効果的な学習環境作り	B			
	DXハイスクール事業の推進	事業に伴う導入機器の設定、活用に向けた環境作り	C	C		
		コンテンツ制作能力、データ活用能力の育成	C			
募集広報部	・ ホームページ、SNSを活用した効果的・効率的な広報の実践	・ C S V (clear,simple,visual)の観点での発信	B	B	B	・ 学校内部職員への発信と情報共有が不足していたため、職員全体の募集に関する意識不足が否めない現状があった。 ・ 中学校の先生方からの情報が、募集に反映されていない。より丁寧に、より綿密に。 ・ 生徒たちの頑張っている様子の発信を積極的に行う。
		・ マスメディアとの連携	B			
		・ SNSの有効活用（Instagramの活用）	C			
	・ 本校卒業生、および中学校の先生からの「声」の集約と発信	・ 先輩や卒業生からの「声」の集約	C	C		
		・ 中学校の先生からの情報収集	C			
		・ 小中学校、公共施設へのポスター掲示依頼	C			
	・ 説明会、出前授業およびオープンスクールの充実と進化	・ 説明会の計画と実践	B	B		
		・ 小学校。中1・2年生などとの早期段階でのかわり強化	A			
		・ 職員からの「募集・広報」に関するアイデアの募集	C			

企画研修部	・ オープンスクール	・ 学校紹介（学校行事の紹介と体験授業）	A	A	B	・ オープンスクール等の学校紹介イベントの更なる充実。 ・ ipadを活用しての基礎学力の向上
		・ 在校生の学校生活実践発表	A			
	・ 私学展，ゆめタウンイベント	・ 筑豊地区私学5校の学校紹介イベント	B	B		
		・ 行橋ゆめタウンでの学校紹介イベント	B			
	・ ICT教育の実践	・ ipatを活用しての朝学習（スタディーサプリ）	A	B		
		・ ipatを活用しての授業（リモート授業）	B			
		・ ipatを活用して家庭との連携（連絡）	B			
1 年 生	・ 休・退学生徒を未然に防ぐ。	・ 安心できる環境をつくる。（他クラスとの交流）	B	B	B	・ 生活習慣の徹底（遅刻・欠席・連絡） ・ 基本的な生活力の向上 ・ 総合的な探究の時間の充実
		・ 教育相談の充実（副担任の支援）	C			
		・ 教師間、中学校との連携を図る。	A			
	・ iPadの活用促進	・ タブレットを活用した授業を展開する。（教科担任と連携）	B	B		
		・ 課題の配信を行う。（スタディサプリ）	A			
		・ 家庭との連絡手段として活用する。（らくらく連絡網、スタディサプリ）	B			
	・ 自らのことを考え、表現できる生徒を育てる	・ 総合的な探究の時間で成功体験を味わう。	B	B		
		・ 書くことや発言する機会を設ける。	B			
		・ 挨拶、返事、正しい言葉遣いができる指導をする。	B			
2 年 生	・ 休退学者を出さない指導を行う	・ 週一回の学年会議の実施など、早期の情報共有および対応をする	B	B	B	・ 生徒が登校しやすい雰囲気づくりを目指して、より迅速かつ適切な対応の実施 ・ 身に着けた表現力を活用した履歴書や面談シート等の作成指導 ・ 進路実現につながる生活指導の遵守、徹底
		・ 生徒の気持ちを汲み取る機会（面談・SC・SSW等）を設ける	B			
	・ 表現する力の向上	・ HRや学年集会、道徳等を通して表現する機会を積極的に設ける	B	B		
		・ 修学旅行に向けた話し合いやグループワーク、プレゼンを行う	A			
	・ 3年次につながる進路学習	・ 基本的生活習慣の徹底	B	B		
		・ 進路指導部との連携	B			
		・ オープンキャンパスの励行	B			
3 年 生	・ 休退学者を未然に防ぐ	・ 教員・生徒・保護者との信頼関係を築く	B	B	B	・ 目標設定を持たせることで、学校に来ていることの意味を持たせることが必要。 ・ 生徒の成長のため、様々な経験ができる場の提供が必要。
		・ 目標設定を明確にし、日々の学校生活を有意義なものにする	B			
		・ 教室の整備・美しい環境を作る	B			
	・ 生徒の自立を支援、「夢」の実現の支援	・ どんな目標にも支援を怠らず、挑戦できる環境を整備	B	B		
		・ アウトプットができる環境、面談の機会を多く持つ	B			
		・ 多くの物に触れ、知見を広げる	C			
	・ 探求学習による、生徒の自立の支援	・ 校外活動の中で、自身の可能性を探る	A	A		
		・ 実体験の中での経験を増やす	A			
		・ 事前・事後報告を行い、自立の機会の創出	B			